

R01.09.15

第3種郵便物認可

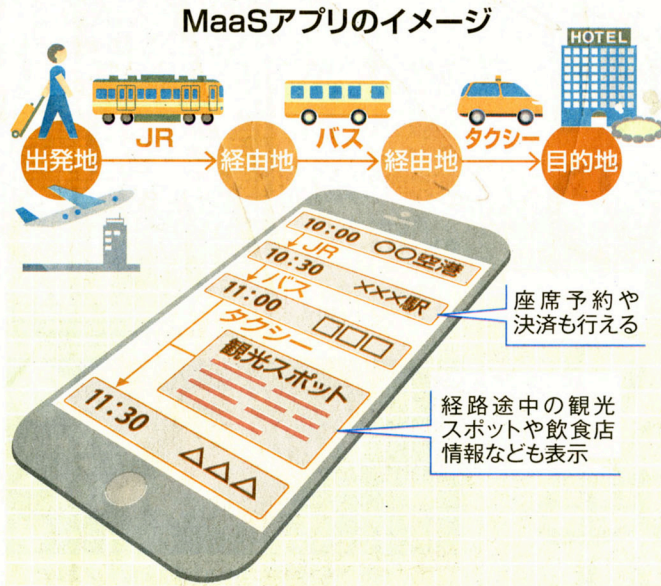
道、実証実験へ■地域と連携課題

「マース」道内普及なるか

交通機関の予約・決済 スマホで一括

道は今月下旬から、スマートフォンで列車やバスなど異なる交通手段の検索や予約、決済などが一括で行える「MaaS（マース）」の実証実験を十勝で始める。鈴木直道知事は実証実験の結果を見極めた上で、一括民営化される道内7空港を中心に全道でマースを展開する方針。道以外の取り組みも進んでおり、道内でマースが普及するかが注目される。

（内藤景太）



マースは「Mobility as a Service（サービスマス）」の略で、2016年にフィンランドの企業がスマホでサービスを提供したのが始まり。一つのアプリで経路や移動手段の検索、電子マネーなどによる事前決済、スマホ画面に表示されたチケットによる乗車など一連の手続きができ、観光客や住民らの利便性向上が期待される。

道は本年度、十勝で2回の実証実験を実施。無料アプリを提供し、9月下旬～10月下旬は目的地までの経路や時間、費用などを検索できるようにする。続く来年1月下旬～2月下旬は検索から予約、決済まで一括で行える仕組みを想定する。経路の途中にある観光スポットや飲食店などの情報も画面に表示し観光客らの周遊も促したい考えだ。

知事は10日の記者会見で「マースは、ストレスのな

（内藤景太）

い分を借りている。でもこれは、みんなが大人になっ

移動を実現する上で大変有効なツール。（民営化される）7空港を中心に全道への波及を目指し、積極的に取り組みたい」と述べた。スマホ一つで空港から目的地まで行き来できたり、全道を周遊したりできるようになる可能性がある。

このほか、大阪の高速バス大手「WILLER（ウィラー）」も8月末からJR釧網線周辺が対象の無料アプリを提供しており、広報担当者は「3年ぐらいかけて全国へ拡大できれば」と説明。北海道運輸局なども来年度以降、阿寒湖温泉周辺でマース実現に向けた取り組みを検討する。

ただ、普及に向けては課題もある。北大大学院の岸邦宏准教授（交通計画）は「アプリをつくるだけでなく、交通事業者が地域と連携し、観光客や住民に公共交通機関を利用してもらうようなイベントや仕掛けをつくる必要がある」と指摘する。

また、道外では企業のマース参入が相次いでいることから「各地でばらばらに取り組みが進みすぎると、地域ごとにサービスが異なるなど、利便性が損なわれる可能性がある」（北海道運輸局）との声もある。事業が乱立した場合、道や国がどう調整していくかも焦点となりそうだ。